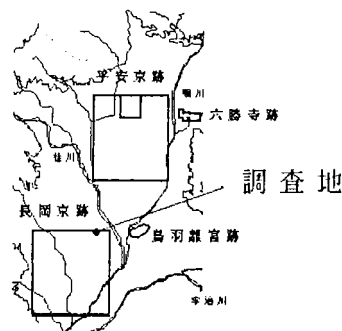


長岡京跡（中久世・大藪遺跡）

－ 発掘調査現地説明会資料 －

1988.2.28

遺跡名 長岡京跡（中久世・大藪遺跡）
所在地 京都市南区久世大藪町394
調査面積 約1000㎡
調査期間 1988年1月21日～継続中
調査機関 財団法人京都市埋蔵文化財研究所

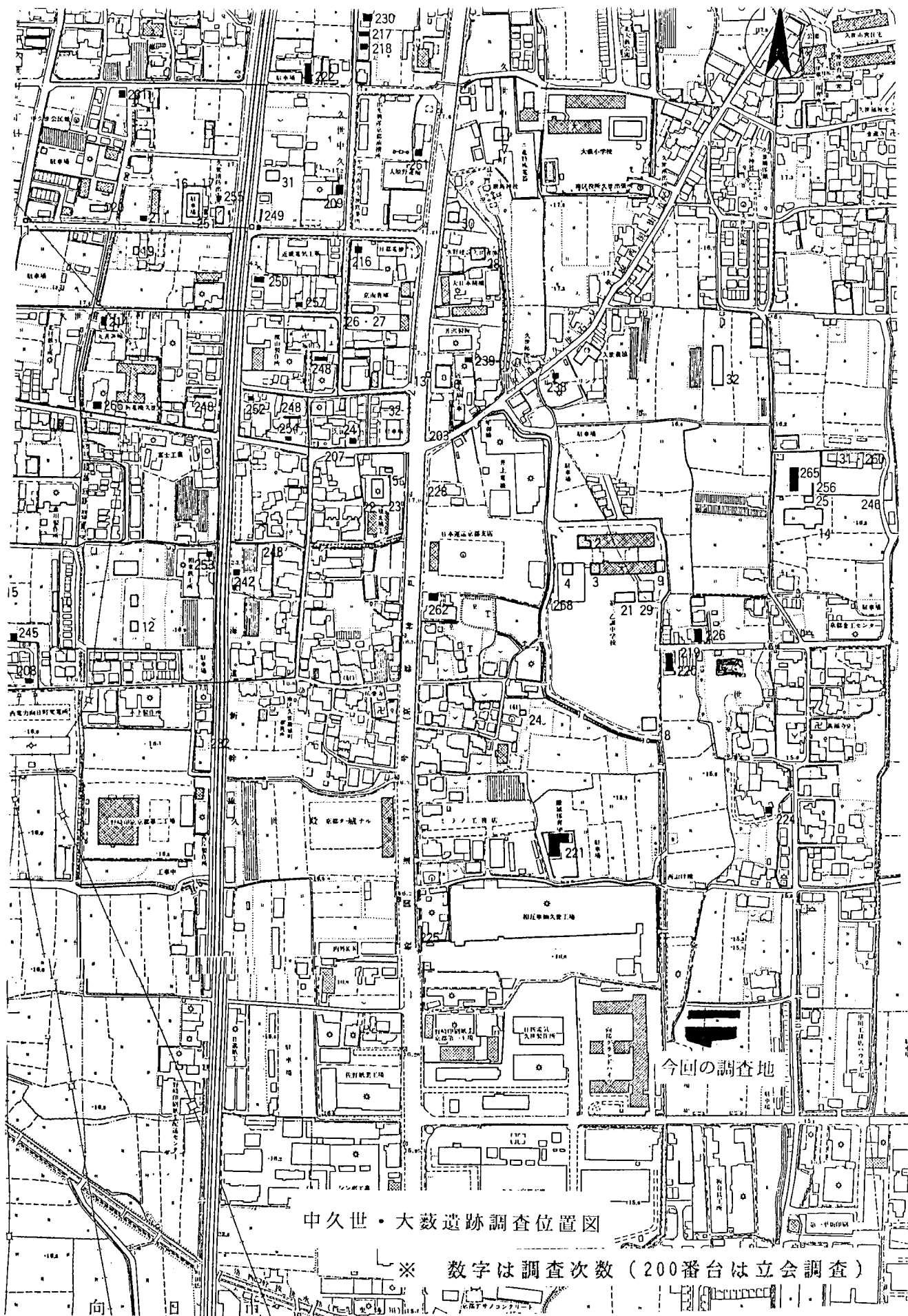


中久世・大藪遺跡は南区久世中久世町・大藪町・殿城町一帯にひろがる弥生時代から歴史時代に至る大集落の跡です。弥生時代の始め頃にこの地に住みついた人々は稲作を定着・発展させ、乙訓の地を開拓しました。この村にはたくさんの住居・水路・墓地等があり、中央には大きな河が流れていたことがこれまでの発掘調査によって明らかにされています。中久世・大藪遺跡はこのように大規模な遺跡で、神足遺跡（長岡京）や鶏冠井遺跡（向日市）、羽束師遺跡（京都市）等とならぶ弥生時代から古墳時代の乙訓地方の拠点的な遺跡の一つです。また奈良時代から平安時代の建物・井戸・土壇・河川、鎌倉時代から室町時代の建物・溝などの遺構を発見しています。

今回の調査は、宅地造成工事に伴う事前発掘調査です。調査によって、弥生時代末から古墳時代始めにかけての^{たてあなしぐうきょあと} 竪穴住居跡（半地下構造の住居）15棟・水路（幅約3mの溝）1条、飛鳥時代から奈良時代の^{はったてはしらたてもゆあと} 掘立柱建物跡（柱を地中に埋め込む建物）3棟以上を発見しました。これまで、この様に住居跡を密集して発見したことは乙訓地方においてもめずらしく、古代の村の様子を具体的に知る上で、貴重な資料となります。またこれらの村は、向日丘陵一帯に集中している前期古墳との関係を考える上で注目すべきものです。

竪穴住居跡一覧表

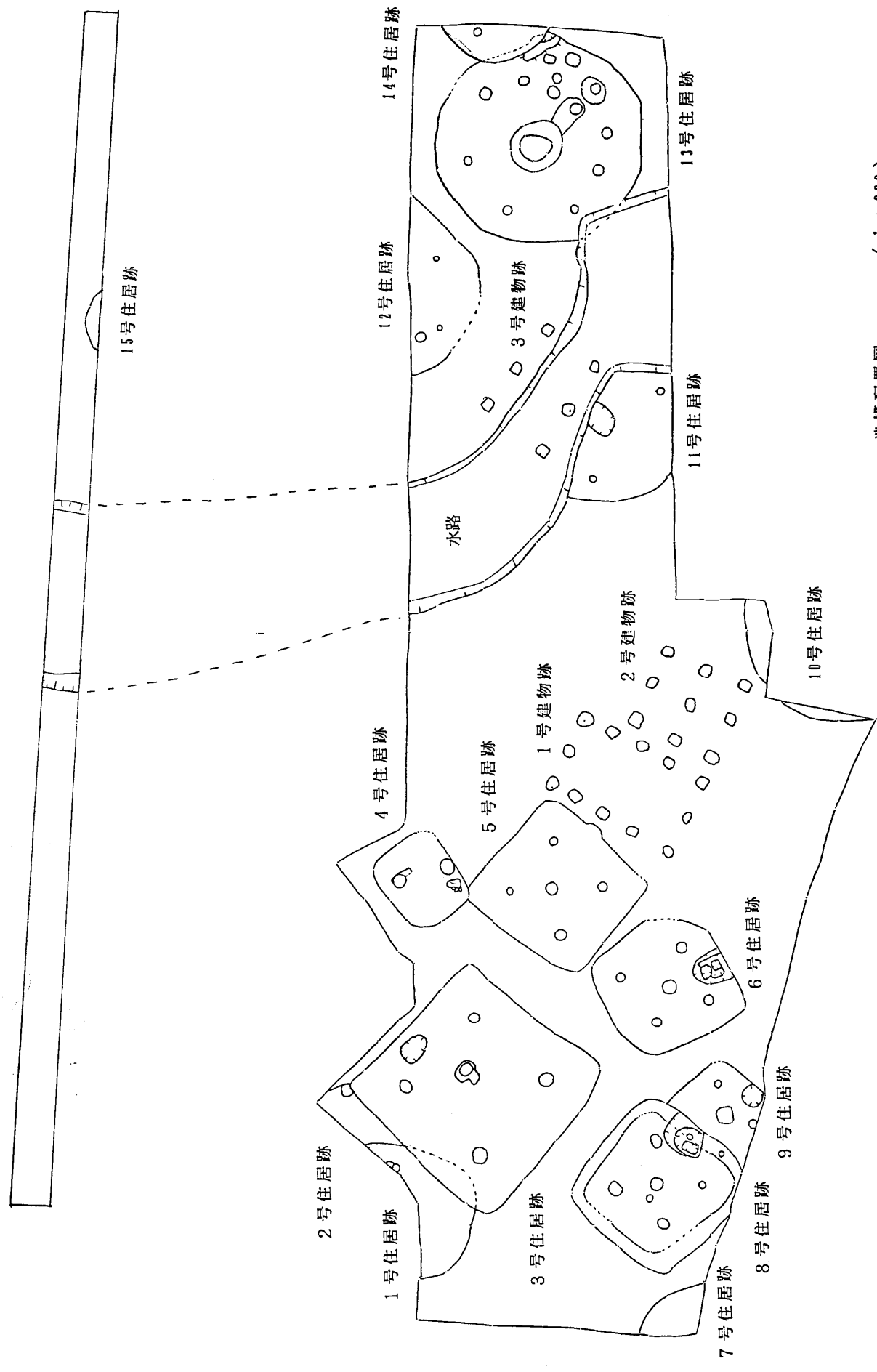
No.	形態	規模(m)	方位	施設	遺物	備考
1	隅丸方形	5.5×6	N20°E	柱穴不明。	土師器 (古墳)	2・3と重複 2→1→3
2	不明	不明		隅部に炭・焼土を検出。 柱穴不明。	土器片	1・3と重複
3	方形	8.5×8.5	N45°E	柱穴4本。 中央に炉、東辺に貯蔵穴。	土師器 (古墳)	1・2と重複
4	隅丸方形	3.3×4	N65°E	柱穴なし。 中央に炉、南部にピット。	土師器 (古墳)	5と重複 5→4
5	方形	6×6	N45°E	柱穴4本。中央に炉、東辺 凸部に炭・焼土を検出。	土師器 (古墳)	4と重複
6	隅丸方形	5.8×5.8	N65°E	柱穴4本。中央に炉、東辺 に貯蔵穴。	土師器 (古墳)	
7	不明	不明		柱穴1本確認。	土器片	
8	隅丸方形	5.8×5.8	N45°E	柱穴4本。中央に炉。 4方に拡張か？	土師器 (古墳)	9と重複 9→8
9	隅丸方形	(4.5×4.5)	N40°E	柱穴2本確認。		8と重複
10	円形	不明		柱穴不明。		
11	円形	(直径8)		柱穴2本確認。 中央にピットあり。	弥生土器 (後期)	
12	円形	(直径8)		柱穴2本確認。	弥生土器 (後期)	
13	多角形	(直径9)		柱穴8本。 東辺凸部に炭・焼土検出。	弥生土器 (後期)	14と重複 13→14
14	円形	不明		柱穴1本確認。 中央部凹む。	土器片	13と重複
15	円形	不明		柱穴不明。	土器片	



中久世・大蔵遺跡調査位置図

※ 数字は調査回数（200番台は立会調査）

Y-25.350
Y-25.340
Y-25.330
Y-25.320
Y-25.310
Y-25.300
Y-25.290

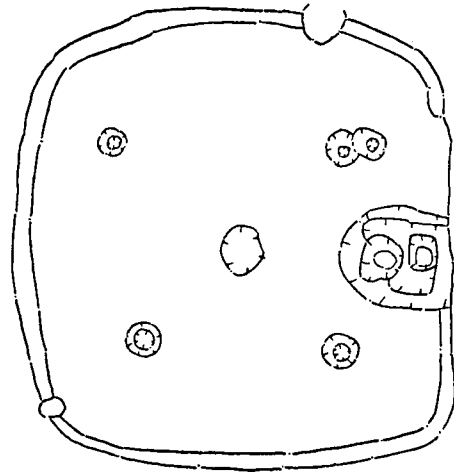


X-116.500

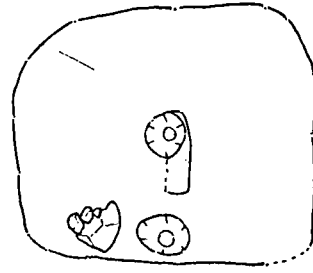
X-116.510

X-116.520

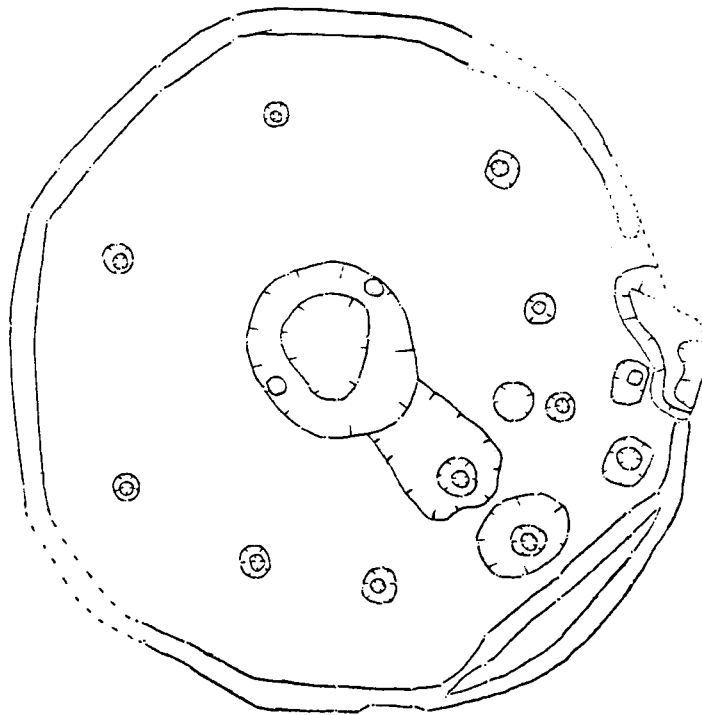
X-116.530



6号住居跡

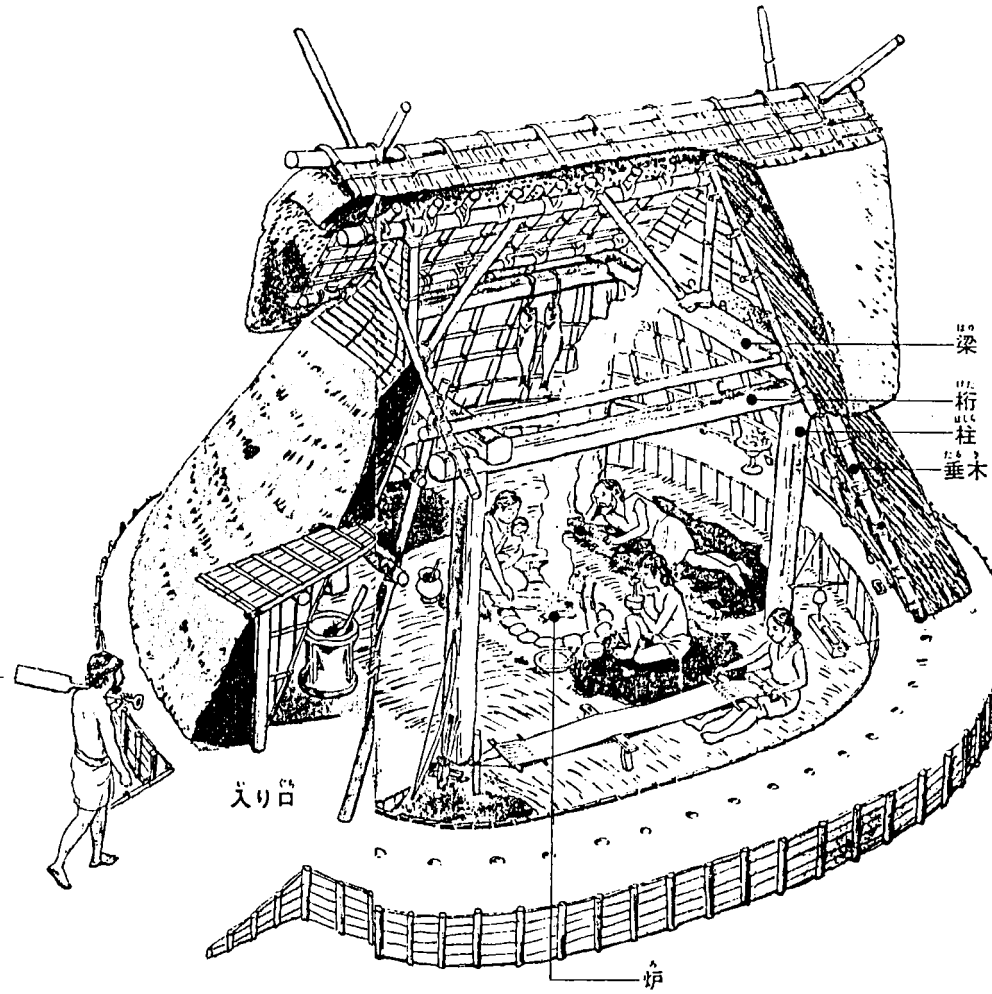


4号住居跡

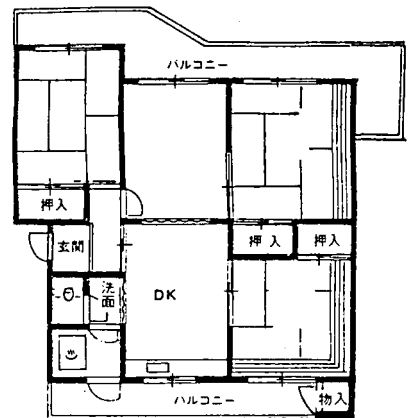
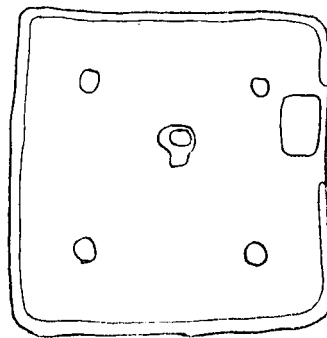
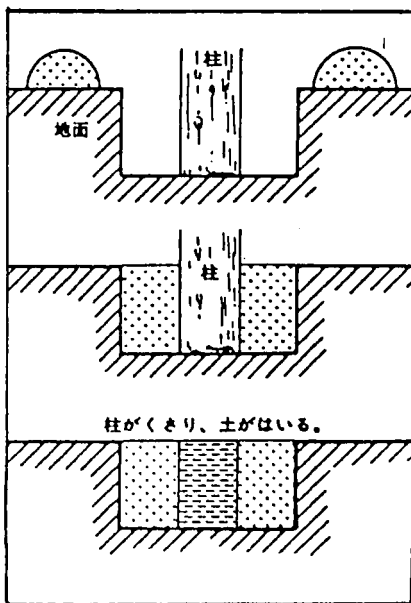


13号住居跡

竖穴住居跡实测图 (1:100)



竪穴住居復元図（『少年少女 日本の歴史1』小学館による）



住居規模比較図（1：200）

掘立柱跡のできかた